

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2013年度総会 議案書

日時：2013年5月19日（日）午後2時～4時半

会場：国分寺労政会館 第一会議室

目 次

第一号議案	2012年度事業報告承認について・・・・・・・・・・	2
第二号議案	2012年度決算報告及び監査報告承認について・・・・・・・・	7
第三号議案	2013年度事業計画決定について・・・・・・・・・・	11
第四号議案	2013年度活動予算決定について・・・・・・・・・・	14
第五号議案	任期満了に伴う役員の改選について・・・・・・・・・・	15

第一号議案 2012 年度事業報告承認について（案）

1 資料・情報の収集・整理、保存、提供事業

（1）共同保存図書館の準備作業

共同保存図書館の準備作業として 2009 年度から続けてきた、“自治体の図書館で最後の 1 冊となった資料が、多摩地域で最後の 2 冊に該当するかを検索する作業”は、2012 年度は実施できなかった。いくつかの自治体に声をかけ希望を募ったが、実施に向けて準備したいという動きはあったものの検索作業の実施には至らなかった。

会員メーリングリストも動き始め、ボランティア募集に取り組む予定であったが、検索作業が具体化しなかったため今年度はできなかった。

（2）図書館資料の里親探し（多摩地域各図書館の余剰資料の有効活用のための交換斡旋）

2012 年度は、前年度に除籍候補資料の横断検索等を行った結果を受けて申込みがあった資料（シリーズ本や参考図書等基本図書）の里親探しを、継続して実施した。

このほか、複数の図書館から文学全集や参考図書で状態の良い本が、被災地での活用の可能性を含めて多摩デポに託されたが、現段階では被災地図書館とのマッチングが難しいことから、まず多摩地域内での里親探しを行った。

シリーズ本の欠本補充は需要があるが、欠本でも補充を希望しないケースが出てきている。このことから、書庫スペースの逼迫が非常に深刻であることがうかがわれる。今年度は基本的な参考図書の提供希望があり、各館とも所蔵しているのではないかと思われたが、実際に調査してみると数館ずつ未所蔵館が見つかった。新品同様の品だったこともあって、ほとんどの本の交渉が成立した。学校図書館に関しては、旧版の参考図書でも希望が寄せられる場合がある。

単位：冊

提供申込タイトル	成立		未成立	不成立	その他
映画関係図書	28	(1 市)		10	
シリーズ変貌する家族	2	(2 市)		1	
岩波講座 教育の方法	2	(2 市)		3	
参考図書	19	(1 校 1 市)	2	40	
全集・参考図書	203	(12 市)	154		3
2012 年度 計	254		156	54	3

2 情報・読書・図書館に関する講座・講演会の企画運営事業

（1）総会記念パネルディスカッションの開催

発足から 5 年目を迎え、多摩デポ発足のきっかけとなった都立図書館再編や相互協力の問題、その後の経過などを多くの人に伝えていくため、パネルディスカッションを総会記念事業として行った。原点に立ち返り、これまでの歩みと本来の目的を確認し、これからの展望を語り合う場となった。

日時：5月20日（日）午後3時10分～4時30分 （午後2時～3時 2012年度通常総会 開催）

会場：国分寺労政会館第一会議室 （参加：29名）

内容：「多摩の共同保存のいままで と これから」

パネリスト：中村照雄氏（八王子市生涯学習センター図書館長）

手嶋孝典理事（元町田市立図書館長）

雨谷逸枝（多摩デポ事務局員、元東京都立図書館職員）

コーディネーター：齊藤誠一事務局長（元立川市図書館職員/元「都立多摩図書館があぶない！集会」実行委員会共同代表）

（２）多摩デポ講座

① 第14回（2012/8/5）「電子書籍よ、さようなら 凜とせよ公共図書館

—印刷本の面白さを未来に残すために—

講師：星俊雄氏（日外アソシエーツ）

堀越洋一郎氏（武蔵野美術大学非常勤講師）

会場：調布市市民プラザあくろす あくろすホール2（参加：23名）

電子書籍については大局的・抽象的な情報・論評は多くある中で、電子書籍の工学的なあるいは商品としての特性を丁寧に説明し、これを図書館事業の中に組み込んでいくことへの課題について整理された講座であった。タイトルがひねりすぎてわかりにくかったとの声があった。一方、内容については、電子書籍の現状と問題点、図書館で導入するにあたっての課題についてよくまとまった話が聞けた、という感想があった。

② 第15回（2012/11/16）「八王子市の英断 地域資料が残った」（講座／見学会）

講師：中村照雄氏（八王子市生涯学習センター図書館長）

会場：八王子市中央図書館 視聴覚ホール（参加：23名）

都立図書館の再編・都立多摩の機能縮小に伴い、除籍対象となった多摩地域資料を一括して受け入れ公開にこぎつけた八王子市図書館の取り組み経過を聞き、書庫見学をさせてもらう会をタイミングよく行なうことができた。書庫には壁面一杯に散逸を免れデータ整理された資料が並べられていた。八王子市はこの間大変な作業だったが、公開後はあまりPRもしていないのに多くの利用があることを伺い、参加者からはねぎらいと賞賛の声が出ていた。会員外の参加も多く公務出張が複数の自治体からあった。多摩地域の図書館連携の中での注目はこれからのようだった。今後は、英断により残された資料群を他の市町村が図書館連携の中でより生かし、フォローしていく課題があるのではないだろうか。

③ 第16回（2013/2/16）「映画『40万冊の図書』の監督に聞く

～疎開させ空襲から本を守った事跡を追う～

講師：金高謙二氏（映画監督）

会場：八王子クリエイトホール 視聴覚室（参加：23名）

太平洋戦争末期の空襲下に、大量の蔵書に加え大量の民間買い上げ文献を多摩に疎開させ守る取り組みをした都立図書館の事跡を発掘したドキュメンタリー映画を製作した監督の話聞いた。多彩な参加があり、職場の前史としてこの事跡を発掘していた元都立図書館職員や、かつて図書館の先輩と疎開に使われた土蔵を見学に行った地域の前図書館長、映画を受けてのあきる野市での動きを紹介する地元新聞記者など、様々な発言があった。講師は映画改訂版準備と同事跡のノンフィクション本を執筆中とのことで、上映会ではなかったが、講座の中で様々な追加情報も得られた。

（３）除籍と資料保存に関する研修会の実施

次代を担う職員を対象として資料保存の理念や必要性、また具体的な知識や技術を引き継いでいく除

籍や資料保存に関する研修会を企画・実施する予定であったが、実現には至らなかった。多摩デポ主催の研修会とは限らず、東京都市町村立図書館長協議会（以下、館長会という。）との共催、あるいは館長会主催の研修会実施を多摩デポが協力する形の方が有効であろうとの考えから、館長会会長と面談の場を持ち、企画・実施の可能性を探った。

（４） 図書館総合展ポスターセッションへの参加

11月20日から22日までパシフィコ横浜で第14回図書館総合展が行われ、第10回（2008年度）から引き続きポスターセッションに参加した。昨年度は、取り組んでいた東日本大震災の資料復旧支援活動も紹介したが、今年度は共同保存図書館の課題に内容を絞った。多摩デポを知ってもらうよい機会になり、『多摩デポブックレット』の販売では67冊の売り上げがあった。

（５） 東京都多摩地域公立図書館大会への協力・参加

今年度は多摩デポとして参加を求められる企画はなく、会報等で大会開催を紹介するに止まった。開催期間、会場では「多摩デポ講座」のチラシ配布を行ない、日本図書館協会の震災復興支援活動紹介のパネル展示に協力した。

3 図書館業務にかかわる調査研究事業

（１） バーチャル共同保存図書館構想の調査・研究

自治体を越えた図書館が仮想空間で図書館の所蔵情報を共有化し、保存と廃棄を行うための仕組みを構想する「V-depo-L TAMA 構想（Virtual Deposit Library TAMA 構想）」に関する調査・研究のために、データベースの専門家に助言を求め、可能性を模索した。

（２） 資料の保存場所の確保に向けた調査

共同保存図書館実現に向けては、用地・施設の見通しの確保は、多摩デポ発足以来の課題である。現在行っている活動の中からも、里親探し事業や被災地図書館支援用資料の一時的な保管の必要性が浮上し、短期的にも多摩デポ独自の一定の保存スペースを確保することが検討された。しかし特に被災地支援のマッチングの課題が浮上したことから、当面の具体的な必要性は薄いと判断し、着手しなかった。

（３） 東京都立多摩図書館移転構想の分析・研究・提言

2011年に東京都教育委員会から発表された「東京都立多摩図書館移転構想」について、進展状況を注視しながら、移転後の新たな都立多摩図書館で共同保存機能を整えるよう多摩デポとしての提言を行っていくこととしていたが、情報収集にとどまった。

（４） 「資料保存横断検索マニュアル」の普及活動

数年間続いていた、多摩地域の図書館からの、自館資料の除籍に関わっての横断検索依頼が途絶えたこともあり、作成した「横断検索マニュアル」の内容を検証しながら普及を図ることはできなかったが、前年度に多摩デポが検索作業を引き受け、重複調査を協力して行った自治体で、その時のノウハウを活かして、図書館内で重複調査ができるようになった、という例があった。

（５） 東京都市町村立図書館長協議会の報告書の分析・普及

2008年3月に東京都市町村立図書館長協議会が作成した『多摩地域における共同利用図書館検討調査報告書』を風化させず、多くの人の理解を求め、その後の状況と刷り合わせ、実現を図っていく必要がある。10月24日には、多摩デポ理事長が依頼により館長協議会全体会に出席して「多摩地域図書館における図書館資料の共同保存」と題して講演、この報告書の背景および内容説明と、この十年の経過・取組みについて説明し、質疑・意見交換を行った。

4 印刷物の発行等による普及啓発事業

(1) 機関紙およびパンフレットの発行

『多摩デポ通信』は第23号～26号までを発行し、年4回の定期刊行を実行できた。

10月には、活動内容紹介と役員名簿を変更したパンフレットの改訂版を発行した。

(2) 『多摩デポブックレット』の発行

5月に『多摩デポブックレット』の7号を発行した(山田優子著『多摩を歩いて三七年半』)。引き続き8号、9号の編集を行っているが、それぞれの事情により、年度内発行までには至らなかった。

(3) ホームページの維持

利用しているプロバイダーの事業変更によりWEB上のホームページ作成ソフトの使い勝手が悪くなったので、ホームページ作成ソフトを購入し、作成体制を再編成した。リニューアルサイトを作成中である。

5 メーリングリストの活用

会員への迅速な情報提供と会員相互の情報交換を目的として、正会員・賛助会員を対象としたメーリングリストを開始した。事務局からのデポ講座等のお知らせ、会員からの新聞記事紹介などの発信があった。

6 会員の拡大

さまざまな場面で多摩デポのPRを行い、会員の拡大を図った。

7 東日本大震災被災図書館への支援活動

日本図書館協会の「Help-Toshokan」図書館支援隊活動に協力し、被災した図書館資料を蔵書として利用し保存し続けられるよう、資料レスキュー作業に参加した。

・陸前高田市立図書館郷土資料救済支援活動(第二期)

期間：6月3日～5日

場所：岩手県立博物館

多摩デポも参加した第一期の救済活動で、津波により全壊した図書館内からレスキューした約500点の郷土資料のうち、代替不能で手当てが必要と判断された約260点の図書と図面、壁新聞に貼られたり箱に入っていた写真を対象とし、乾燥・ドライクリーニング・消毒と今後の処置毎の仕分け作業等を行った。第二期活動は、陸前高田市教育委員会の要請に基づく岩手県立図書館の活動に、国立国会図書館と日本図書館協会資料保存委員会が技術指導の面から協力、「Help-Toshokan」図書館支援隊(東日本大震災修理ボランティア、多摩デポ)と盛岡大学がボランティアとして参加、全体の作業者は延べ50名であった。多摩デポからは3名が参加した。

8 多摩デポ関連のマスコミ報道、書評等

<2012年>

- ・『朝日新聞』5/19 多摩版・東京版：「都立図書館の蔵書保管効率化 「図書館の図書館」、今後はNPO法人 あす国分寺 利用者への影響を検証」
- ・『みんなで考える図書館の地震対策』日本図書館協会：(2012/5/19)：p81
被災地の図書館への支援例：NPO法人共同保存図書館・多摩
- ・『地域活動情報紙』調布市：vol.7 (2012/7/5)：NPO活動特集号：2面：「共同保存図書館・多摩」紹介
- ・『知恵の樹』町田の図書館活動をすすめる会：No.169 (2012/7/18)：「都立図書館の後退の始まりから10年～共同保存・利用図書館について考える」 手嶋孝典
- ・『ネットワーク資料保存』第101号 (7月)：「陸前高田市立図書館郷土資料救済支援活動(第二期)報告」 宮原みゆき
- ・『しんぶん赤旗』8/19 首都圏版：「図書館にも冷たい石原都政⑩」52万冊もの除籍 学習権保障 都の責務 資料保存の機能重要
- ・『みんなの図書館』11月号 (No.427) 各地のたより：電子書籍の現状と図書館 戸張祐介
- ・『国立国会図書館月報』11月号 (No.620) シリーズ 被災地の図書館は今 (2)
「一歩ずつ、前に 被災資料救済支援の現場から」 岡橋明子
「陸前高田市立図書館郷土資料救済支援について」 澤口祐子

<2013年>

- ・『知恵の樹』町田の図書館活動をすすめる会：No.172(2013/1/16)：「八王子市図書館の英断 地域資料が残った (第15回多摩デポ講座一見学会)に参加して」 手嶋孝典
- ・『図書館制度・経営論』手嶋孝典・編著 学文社 (2013/1月刊) 第7章 図書館政策 (国・地方自治体) 第3節 都道府県の図書館政策 b. 東京都の図書館政策 (その2) p.52
- ・『西多摩新聞』2/22 :「戦時中の図書疎開一戦火を逃れた40万冊 八王子で映画監督招き講演会」
- ・『図書館とメディアの本 ず・ぼん』ポット出版：18号 (2013/2月刊) 「被災図書館支援の旅ーキャンピングカーで東北を駆け巡る」 矢崎省三
- ・『出版ニュース』3月中旬号：3.11から2年の現在は (特集)：「図書館の防災・減災のこれからを考える」 吉田光美

第二号議案 2012年度決算報告および監査報告の承認について (案)

2012年度 活動計算書(案)

2012年4月1日から2013年3月31日まで

特定非営利活動法人 共同保存図書館・多摩

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	505,000		
賛助会員受取会費	110,000	615,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	405,354	405,354	
3 事業収益			
(1)情報・読書・出版・図書館に関する講座 ・講演会の企画・運営事業収益	23,000		
(2)印刷物の発行等による普及啓発事業収益	199,120	222,120	ブックレット売上
4 受取利息	289	289	
経常収益計			1,242,763
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
給料手当	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
諸謝金	30,000		
印刷製本費	3,850		
ブックレット印刷製本費	105,350		第7号当年度原価のみ
会議費	12,860		
旅費交通費	15,930		
通信運搬費	73,627		
消耗品費	41,840		
地代家賃	240,000		
雑費	3,604		
その他経費計	527,061		
事業費計		527,061	
2 管理費			
(1)人件費			
給料手当	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
印刷製本費	1,140		
会議費	15,900		
旅費交通費	31,420		
通信運搬費	35,494		
消耗品費	4,760		
水道光熱費	36,129		
地代家賃	120,000		
研修費	0		
支払手数料	10,640		
その他経費計	255,483		
管理費計		255,483	
3 予備費	0	0	
経常費用計			782,544
当期経常増減額			460,219
III 経常外収益			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			460,219
法人住民税			70,000
当期正味財産増減額			390,219
前期繰越正味財産額			1,256,414
次期繰越正味財産額			1,646,633

2012年度 貸借対照表(案)

2013年3月31日現在

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	1,473,983		
刊行物在庫	622,734		
未収金	0		
流動資産合計		2,096,717	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
土地	0		
建物	0		
車両運搬具	0		
什器備品	0		
有形固定資産計	0		
(2)無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3)投資その他の資産			
敷金	30,000		
投資その他の資産計	30,000		
固定資産合計		30,000	
資産合計			2,126,717
II 負債の部			
1 流動負債			
前受会費	23,000		
刊行物在庫見返	427,084		
流動負債合計		450,084	
2 固定負債			
長期借入金	0		
退職給与引当金	0		
敷金見返	30,000		
固定負債合計		30,000	
負債合計			480,084
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,256,414	
当期正味財産増減額		390,219	
正味財産合計			1,646,633
負債及び正味財産合計			2,126,717

2012年度 計算書類の注記（案）

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

1 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
刊行物（ブックレット）を取得時の原価で評価します。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却します。
- (3) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理
施設の提供等の物的サービスについては、特に会計上の処理や財務諸表への表示は行いません。
- (4) ボランティアによる役務の提供を受けた場合の会計処理
ボランティアによる役務の提供については、特に会計上の処理や財務諸表への表示は行いません。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によります。

2 事業別損益の状況

(単位：円)

科目	資料・情報 の整理 提供事業	講座・講演 会の企画運 営事業	調査研 究事業	印刷物の発行等による 啓発普及事業		事業部門計	管理部門	合計
				通信等	ブックレット			
I 経常収益								
1. 受取会費							615,000	615,000
2. 受取寄附金							405,354	405,354
3. 受取助成金等						0		0
4. 事業収益		23,000			199,120	222,120		222,120
5. その他収益							289	289
経常収益計	0	23,000	0	0	199,120	222,120	1,020,643	1,242,763
II 経常費用								
(1) 人件費								
給料手当						0	0	0
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) その他経費								
諸謝金	0	30,000	0	0	0	30,000	0	30,000
印刷製本費	0	600	0	3,250	105,350	109,200	1,140	110,340
会議費	0	9,400	0	1,000	2,460	12,860	15,900	28,760
旅費交通費	4,300	0	0	8,950	2,680	15,930	31,420	47,350
通信運搬費	0	2,680	0	60,867	10,080	73,627	35,494	109,121
消耗品費	0	870	0	40,970	0	41,840	4,760	46,600
水道光熱費	0	0	0	0	0	0	36,129	36,129
地代家賃	0	120,000	0	100,000	20,000	240,000	120,000	360,000
支払手数料	0	0	0	0	0	0	10,640	10,640
雑費	380	3,044	0	180	0	3,604	0	3,604
予備費	0	0	0	0	0	0	0	0
その他経費計	4,680	166,594	0	215,217	140,570	527,061	255,483	782,544
経常費用計	4,680	166,594	0	215,217	140,570	527,061	255,483	782,544
当期経常増減額	△ 4,680	△ 143,594	0	△ 215,217	58,550	△ 304,941	765,160	460,219

3 使途等が制約された寄附金等の内訳
 使途等が制約された寄附金等はありません。

4 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
車両運搬具						
什器備品						
.....						
無形固定資産						
.....						
投資その他の資産						
敷金						
.....						
合計						

5 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

6 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引はありません。

(単位：円)

科目	計算書類 に計上さ れた金額	内役員及び 近親者との 取引
(活動計算書)		
活動計算書計		
(貸借対照表)		
貸借対照表計		

7 その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

- ・ 2011年度およびそれ以前に制作（印刷製本）した刊行物（ブックレット）の在庫計上に際し、負債に刊行物在庫見返科目を設けて同額を明らかにし、以後在庫とともに取り崩すこととした。
- ・ 2011年度以前の支出による敷金の固定資産計上に際し、負債に敷金見返科目を設けて同額を計上し、敷金の返還を受けたときはこれをその他収益に処理することとした。
- ・ 家賃について、事業費と管理費の按分割合を2：1とした。
- ・ 光熱水費等については少額でもあるので、管理費より支出した。

第三号議案 2013 年度事業計画決定について（案）

基本方針

NPO法人として活動を始めて6年目に入るが、私たちの最終目標である共同保存図書館の実現には至っていない。しかし図書館資料の里親探し等によって、多摩地域図書館との関係は深まり、多摩デポの認知度は高まっている。共同保存図書館の実現には多摩デポだけの力ではなく、多摩地域にある多くの図書館との連携・協力が必要である。自治体個々に政策や財政状況が違いう中で、多くの図書館が共同保存図書館の必要性を認識し実現に向けた連携・協力ができるように、今年度も啓発活動を続けていく。

そのために、図書館が利用者の資料要求に応えようと自治体を越えて支えあっていることの実証、あるいは視点を変えた公立図書館総体の蔵書の網羅性・有用性の実証といった、理論研究を行っていく。そして多摩地域の図書館における「資料の共同保存のあり方」についての提案書の作成をめざしていく。

調査・研究事業としては、各図書館の所蔵情報を仮想空間で共有し、保存と廃棄を行うための仕組みを構築する「バーチャル共同保存図書館構想」の可能性の検討を行う。関係各方面の理解・協力を求めて、「共同保存」のモデルを多摩地域で構築するための事業を展開していく。

一方で今年度は、国立国会図書館が行っている蔵書の電子化事業により、過去の出版物の一部が各自治体の図書館内でモニターから閲覧できる仕組みが稼働する予定である。様々な意味で変革の時期が到来することになるが、電子配信が始まれば各図書館での蔵書の保存が不要になるわけではない。現物の活字資料の利便性と蔵書保存の意味を再認識し、安易な廃棄が行われぬよう啓発することも必要になってきており、今年度は、資料電子化と現物保存の関係について整理する活動も行っていきたい。

同時に、各自治体で行う保存資料選択作業への協力（横断検索重複調査等）、図書館資料の里親探し、多摩デポ講座の開催や多摩デポブックレットの発行等を継続して実施する。

また、東日本大震災による被災図書館の支援について、必要なニーズの情報把握に努め、これまで多摩デポが取り組んできた複本調査や里親探しなどのノウハウ、被災資料レスキューの経験を生かす活動を継続する。

1 資料・情報の収集・整理、保存、提供事業

（1）共同保存図書館の準備作業

毎年行ってきた“自治体の図書館で最後の1冊となった資料が、多摩地域で最後の2冊に該当するか”を検索する作業は、昨年度は行うことができなかった。今年度については、自治体の除籍候補資料リストや当該図書館の最後の1冊本リストを提供してもらい、多摩デポが検索し、その結果を当該図書館に返す横断検索事業を行っていく。これまでの取り組みにより除籍候補資料横断検索事業の仕様を「資料保存横断検索マニュアル」としてまとめている。現在のところ、自治体の最後の1冊本を他市の所蔵状況のチェックをしないで除籍している図書館もあり、他自治体との重複調査の必要性和効率的な作業ノウハウについて広く普及する活動を行う。

（2）図書館資料の里親探し

2013 年度も引き続き実施する。全集、シリーズもののほか、参考図書、地域資料、多摩地域図書館各館の特殊コレクションの分野等も対象範囲とする。被災地支援に活用できる可能性のある被災地の郷土資料等についても、状況に応じて受け付ける。多摩地域の図書館や類縁機関内で引取り希望がない資料

は、多摩地域外の図書館や類縁機関も提供対象とし、条件が合えば提供していく。

問合せや依頼件数が少ないため、より多くの図書館に里親探しを活用いただけるよう、各図書館の担当者とのコミュニケーションをはかり、PRをしていく。

2 情報・読書・図書館に関する講座・講演会の企画運営事業

(1) 総会記念講演の開催

資料保存に大きく影響する国立国会図書館の資料の電子化を踏まえ、今年度の総会記念講演では、同館の電子化・配信の進捗状況の新たな動きに注目し、その内容についての講演を企画・実施する。

(2) 多摩デポ講座

見学会を含めた多摩デポ講座を3回行う。

(3) 除籍と資料保存に関する研修会の実施

東京都市町村立図書館長協議会に協力し、次世代を担う職員を対象として、資料保存の理念や必要性、また具体的な知識や技術を伝えていく除籍や資料保存に関する研修会を企画・実施する。

(4) 図書館総合展ポスターセッションへの参加

第15回図書館総合展のポスターセッションに参加する。

(5) 東京都多摩地域公立図書館大会への協力・参加

毎年行われる東京都多摩地域公立図書館大会に協力・参加する。

3 図書館業務にかかわる調査研究事業

(1) バーチャル共同保存図書館構想の調査・研究

ハードとしての共同保存図書館の実現に向けた取り組みを行うことと平行して、各図書館が所有する資料データを使いながら、仮想空間で情報を共有化し、保存と廃棄を行うための仕組みを構想する「V-depo-L TAMA 構想 (Virtual Deposit Library TAMA 構想)」の調査・研究を継続して行う。この調査・研究では、国立国会図書館等の電子化の進捗状況を踏まえ、それを活用する中で、新たな方法がないかについても検討を行う。

(2) 東京都立多摩図書館移転構想の分析・研究・提言

2011年に発表された「東京都立多摩図書館移転構想」について、その後の進展状況を注視しながら、新たな都立多摩図書館で共同保存機能を整えるよう多摩デポとしての提言を行っていく。

(3) 東京都市町村立図書館長協議会の報告書の分析・普及

館長協議会が作成した『多摩地域における共同利用図書館検討調査報告書』(2008年3月)を多くの人に理解してもらうため、調査・研究・普及活動を行う。

4 印刷物の発行等による普及啓発事業

(1) 機関紙およびパンフレットの発行

『多摩デポ通信』の年4回の発行を行う。同時に、現在ホームページ上で公開している、同『通信』の記事索引の更新・公開を継続する。

(2) 『多摩デポブックレット』の発行

『多摩デポブックレット』の8号及び9号を発行する。

(3) ホームページの維持

多摩デポの会員にとってはアーカイブ的機能を含めたコンテンツの充実、一般向けには多摩デポの事業をアピールする内容の発信に努めていきたい。

即時更新できるホームページの特性を活かして、『多摩デポ通信』発行時期の間を埋める情報提供に努める。

5 メーリングリストの活用

安定的な運用を維持する。会員に情報交換などで活用してもらえるように、『多摩デポ通信』上で活用事例を紹介するなど広報する。

6 会員の拡大

さまざまな場面で多摩デポのPRを行い、会員の拡大を図る。

7 東日本大震災被災図書館への支援活動

被災地の図書館はおおむね復旧してきているが、津波被害が甚大であった地域や福島県の警戒区域、避難指示区域内の図書館の復興は、まだ具体的な見通しがたっていない状況である。長期的な視点にたつて、被災地図書館の蔵書の再構築や「利用のための保存」の取組みを支援するため、多摩デポの蓄積したノウハウや活動の中からできることを検討し、ニーズがあれば実施する。支援活動の中から得られる保存や防災に関する知識や経験、各方面との連携等は、積極的に今後の共同保存のための活動に活かしていく。

2013年度 活動予算書(案)

2013年4月1日から2014年3月31日まで

特定非営利活動法人 共同保存図書館・多摩

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	550,000	5000×110
賛助会員受取会費	140,000	2000×70
2 受取寄附金		
受取寄附金	250,000	250,000
3 事業収入		
(1)情報・読書・出版・図書館に関する講座 ・講演会の企画・運営事業収益	25,000	500×25×2
(2)印刷物の発行等による普及啓発事業収益	300,000	325,000
4 受取利息	250	250
経常収益計		1,265,250
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費		
給料手当	0	
人件費計	0	
(2)その他経費		
諸謝金	50,000	
印刷製本費	5,000	
ブックレット印刷製本費	250,000	
会議費	15,000	
旅費交通費	20,000	
通信運搬費	75,000	
消耗品費	30,000	
地代家賃	240,000	
雑費	5,000	
その他経費計	690,000	
事業費計		690,000
2 管理費		
(1)人件費		
給料手当	0	
人件費計	0	
(2)その他経費		
印刷製本費	2,000	
会議費	20,000	
旅費交通費	40,000	
通信運搬費	40,000	
消耗品費	5,000	
水道光熱費	40,000	
地代家賃	120,000	
研修費	3,000	
支払手数料	15,000	
雑費	2,000	
その他経費計	287,000	
管理費計		287,000
3 予備費	20,000	20,000
経常費用計		997,000
当期経常増減額		268,250
III 経常外収益		
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		268,250
法人税、住民税及び事業税		100,000
当期正味財産増減額		168,250
前期繰越正味財産額		1,646,633
次期繰越正味財産額		1,814,883

事業別内訳

(1)資料・情報の収集・整理、保存、提供事業	5,000	
(2) 講座・講演会の企画運営事業	70,000	
(3) 図書館業務に関わる調査研究事業	5,000	
(4) 印刷物の発行等による普及啓発事業	105,000	
(4-2)ブックレットの発行	265,000	ブックレット 2 種
(5) 事務所賃貸料	240,000	
	690,000	

第五号議案 任期満了に伴う役員の改選について（案）

定款第 16 条の規定により、役員の異動について下記のとおり提案する。

定款（抜粋）
（任期等）
第16条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

- 退 任
 - 理 事 吉田 徹（元東大和市立図書館長）
- 新 任
 - 理 事 堀 渡 （前国分寺市立図書館長）
- 再 任
 - 理 事 清田 義昭
 - 理 事 齊藤 誠一
 - 理 事 座間 直壯
 - 理 事 田中 ヒロ
 - 理 事 手嶋 孝典
 - 理 事 平山 恵三
 - 理 事 矢崎 省三
 - 監 事 浴 靖子
 - 監 事 国分 一也

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2013年度総会議案書

2013年5月19日

発行：特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

連絡先：〒182-0011 調布市深大寺北町1-31-18

E-mail : depo_tama@yahoo.co.jp

HP : <http://www.tamadepo.org/>